

令和5年4月10日

第1学期始業式式辞

皆さん、こんばんは。今日から新しい年度が始まります。今年度が、皆さん一人一人にとって実り多い年になることを祈念しています。

ところで、「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉を耳にしたことがありますか。これは、カナダ出身の精神科医エリック・バーンが述べた言葉です。

バーンのメッセージは、私たちにいろいろなことを教えてくれます。私自身、これまでの人生を振り返ってみると、その節目ごとに決断を迫られる出来事がありました。そのたびに、自分はどうすべきか悩みました。しかし、最終的には、自分で考えて結論を出しました。今でも、その時のことを振り返ったり、自分の判断を後悔したりすることがあります。ただし、いくら後悔しても過去を変えることはできません。

では、そういった事態を避けるためにどうすればよいのでしょうか。私は、次の三つのことが大切だと考えています。一つ目は、過去の出来事に学ぶこと。二つ目は、自分

の資質、能力、人間性等を高めること。三つめは、判断の根拠となる情報を収集すること。もちろん、以上の三つのことをしておけば万全だと言うつもりはありません。しかし、これらのことを日々実践しておけば、あとで後悔することも減るのではないのでしょうか。

「温故知新」という諺もあるように、過去の出来事に学ぶことは大切です。たとえば、過去の自分の言動や判断を検証し、そこから新たな知見やルールを導き出す。それを、自分だけでなく、家族や友人、先人などに広げてみましょう。ちなみに、私自身は、成功例よりも、過去の失敗例に学ぶことが多かったように思います。

次に、自分を変える、ということについて考えてみましょう。おそらく、私を含め、大多数の人は、あまり変化を望まないのではないのでしょうか。自分を変えるためには、それなりの覚悟と努力が必要です。しかも、それらはある程度、持続することが求められます。したがって、これらの条件を満たせない人は、自分自身の変化や成長の機会を逃すことになります。

昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分。少しずつでも前に進んでいけば、自分の将来に希望がもてます。何もせずにあとで後悔するよりは、今の自分にできることをやる。かりにそれで失敗することがあったとして

も、その結果に自分自身が納得できるのではないでしょうか。それに、自分自身が人間的に成長すれば、ありのままの自分を受け入れることができるようになりますし、他者へも寛容になれます。もしかしたら、そういった自分の変化が周囲に良い影響を及ぼすかもしれません。

今、社会は情報化へと大きく舵を切っています。それに伴い、世間には種々雑多な情報があふれています。その中には、誤った情報や悪意のある情報も含まれています。そういったものの中から、自分に必要な情報を取捨選択する必要があります。

そのためには、何が正しくて、何が誤っているのかを判断するための知識や技能を身に付けなくてはなりません。そして、それらの力が身に付けば、情報の真偽を判断できます。そうやって選別した情報が、皆さんの判断や思考を支えてくれるはずです。

自分らしい人生を送るため、変化を恐れず、いろいろなことに挑戦してみましょう。そうすれば、おのずと皆さんの未来が開けるはずです。

以上で、私の話を終わります。